

PORT SAPIE

ほろぴえ

2002 FEB.
Vol.14

函館大学広報誌Vol.14 ●発行／函館大学広報誌編集事務局



●特集 21世紀の戦略

大学教育の「質」と「実」を求めて 専攻塾 スタートからほぼ1年が経過して 国内大学ではユニークな6つのコース

●平成13年度就職戦線をふり返って

厳しい就職環境の中でも前向きな選択を

●FROM THE WORLD

広がる国際交流の輪

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 上田秀雄
作曲 館野信平

一、親潮速き海峡を とどろと寄する荒波も
 乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
 真理の海に極させば 黙示ひらけて人の世の
 まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
 ついに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

二、徳並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
 尽させぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
 恵み願ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
 樂園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
 ついに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

三、狭霧晴れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
 思案の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
 友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
 道ひとすじに進まん お、これぞこれ友垣を
 ついに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

3月までの主な日程

1月 8日	冬季休業終了
1月 9日	後期授業再開
1月17日	後期授業終了
1月18日～31日	後期末試験
1月31日	卒業論文提出締切
2月 1日	試験入試、自己推薦入試（1期）
2月 7日	本学主催業界研究会 就職懇談会（函館）
3月 1日～31日	春季休業
3月14日	自己推薦入試（2期）
3月16日	第34回卒業式
3月	○次年度採用情報収集 ○求人申込書、就職要覧等発送

函館大学
広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号
TEL (0138) 57-1181 FAX (0138) 59-4575



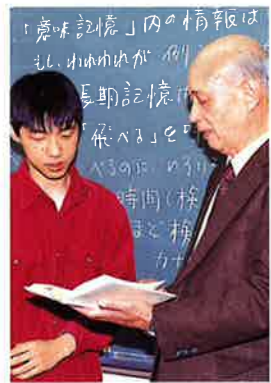
大学教育の「質」と「実」を求めて

二〇〇一（平成十三年）年にスタートさせた、函館大学独自の専攻塾とコース制度。それは、まさに二十一世紀を迎えた函館大学の新たな挑戦であり、二十一世紀にふさわしい函館大学をめざす戦略でもあります。専攻塾がスタートしてほぼ一年を経過した今をレポートします。

人間教育としての「質」 人材教育としての「実」

野又肇理事長は、前号の河村学長との対談の中で、専攻塾について「吉田松陰の松下村塾、あの小さな私塾からなぜ時代を揺るがした人材が輩出されたのか。突きつめて考えれば、教育とは教師と学生の全人格的なふれあいではないか、というのが塾発想の原点になった」と述べています。河村学長も、「指導する教員も自らを律し自己教育することが必要。学生の能力を引き出し、支援し、将来の方向性を導くのが教員の役割」と力説しました。

この言葉を言いかえれば、人間教育の「質」と、社会へ有能な人材を輩出するという「実」を、より徹底して追究していくこととする函館大学の姿勢を示すものです。



以前より函館大学がテーマとして

きた、自己改革により独自性を創造し、個性ある大学をめざす「ベンチャー・ユニバーシティ（挑戦する大学）」も、教育の「質・実」を追求するものに他なりません。

システム改革から意識改革へ

専攻塾がスタートしてほぼ一年。五つの塾の塾生は、現在のところ一年生だけということになります。塾制度の成果については、もちろん五年・十年後に検証されることですが、確実に変わったものとしては教員の意識です。塾の授業運営は、三、四人の担当教員が合議制で行うことにより、それぞれの研究分野を体系的につなげられ、各自の専門性をより発揮できるようになりました。また、塾生とは授業だけのつながりではなく、生活面での指導にも目が届くようになりました。こうした親しいふれあいの中から将来の方向性を導いていくことが期待できます。教員は、塾生に対し常に「師」とあることを意識するようになったといえます。これが野又理事長の言う「全人格的なふれあい」から生まれる教育となっていくことでしょう。

ぼるとさびえ

「ぼるとさびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサビエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



〔表紙〕クリスマスファンタジー

特集 21世紀の戦略

大学教育の「質」と「実」を求めて	1
ルポ 国際ビジネスコミュニケーション 専攻塾の一週間を追う	2
スタートからほぼ1年が経過して	3
講義棟・音楽スタジオ新築、図書館増築 国内大学ではユニークな6つのコース	5
特別寄稿 「何が勝負を決めるのか」 客員教授 吉野 源太郎	8
北から南から 出身校紹介	9
平成13年度就職戦線をふり返って 厳しい就職環境の中でも前向きな選択を	10
同窓生を訪ねて 頑張れ学生社長	11
FROM THE WORLD 広がる国際交流の輪—姉妹校紹介—	12
ようこそ留学生 おかえりなさい留学生	13
卒業生特別寄稿 「現在の私の出発点は、函大時代の海外留学でした」 有限会社バディーズ・インターナショナル代表取締役 横溝 泰子	15
ゼミナール紹介	16
研究室から 教職員プロフィール	17
18	
函館散歩 ちょっと歩いてみませんか(湯川地区) いい店食べ歩き	20
公開講座	22
著書紹介	23
クラブclose-up ジャズ研究部	24
クラブ紹介 羽根球部	24
キャンパスレポート ・OH!函大祭 ・三浦由隣くん論文コンクール特別賞受賞 ・佐藤季教くん全国童謡歌唱コンクールで銅賞 ・函大ボウリング部2年連続全国準優勝	25
コラム 「話題の窓」『経済構造改革』 教授 若松 裕之	27
エッセイ 心つれづれ 学長 河村 博旨	28
野又学園プロフィール 函館短期大学付設函館調理師専門学校	29

ルポ

国際ビジネスコミュニケーション 専攻塾の一週間を追う

専攻塾の姿を具体的に紹介するために、国際ビジネスコミュニケーション専攻塾を例に、その一週間の主な授業を追ってみました。

TOEICの問題を解くための演習。在学中にTOEIC700点レベルを目標にし、英検では2級～準1級が目標。アメリカ人のブライアン・ダップ先生が、ネイティブな英語で解説しますが、話がつい横道にそれていつも笑いが絶えない教室です。

月曜日 4講時
「BCTS I」



これは1年生の共通科目。共通科目では教養科目や、専門科目の基礎を学びます。この日の授業では、「もし中学生向けの化粧品を発売したら売れるか」というテーマで、学生1人ひとりが意見を発表。それに対しての討議などで、授業が展開しました。学生にも身近なテーマなので、活発な議論が飛び交いました。



木曜日 2講時
「ビジネス・イングリッシュ・ユーゼジ」



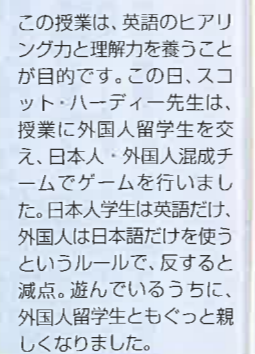
この英語の授業は、英字の新聞・雑誌が読めるように、基本的な文法を学ぶ授業です。中学・高校からの文法のおさらいとともに、英語の文章表現も解説します。先生の質問に、答えを請らせる場面も。1年次は基本文法のおさらい、そして2年次から時事英語も読めるように授業を進めます。



水曜日 5講時
「特設演習GCS」



火曜日 2講時
「経営学総論」



金曜日 2講時
「IBC I」



英検受験を意識し、英単語・熟語力を養います。個別指導的に、1人ひとりのレベルに合わせて指導するのが、担当の高月晋先生の方針。この日は、外国人留学生とともに、全員が短いスピーチをしました。もちろん日本人学生は英語で、外国人は日本語で。みんなの迷スピーチに、先生も時々苦笑い。

スタートからほぼ一年が経過して

平成十三年四月に専攻塾がスタートし、ほぼ一年が経過しました。各塾でそれぞれの担当教員が、独自性のある教育を実践しようと、試行錯誤しているのが現状です。それぞれの塾の担当教員から、この一年間の経過や学生たちの反応など、現況を知らせてもらいました。

国際ビジネスコミュニケーション専攻塾

担当教員 教授 高月 晋 (商業英語・国際貿易論)
専任講師 ブライアン・ダップ (英語・英会話)
専任講師 スコット・ハーディー (英語・英会話)
留學生との交流も深めながら
コミュニケーション能力を養っています

合わせた効率的な指導が可能なので、STEP (英検) や TOEIC、TESOL を受験するにあたっては、理想的な援助環境が整っていると云えます。



国際ビジネスコミュニケーション専攻塾の経過は極めて良好と言えます。教室内外での協力を体制を組み、塾生たちの学習に対する姿勢も積極的に変わってきました。着実に実力をつけてきており、日々学習を継続しています。さらに、より経験のある塾生が、他の塾生の手助けをする雰囲気が出ています。

塾生が大学内外において留学生や他の外国人と接する機会が豊富なことです。今年も当塾で、八週間のオーストラリア語学研修を計画していますが、その準備としても留学生たちとの交流を活用しています。正式に決定はしていませんが、この語学研修によって自分のコミュニケーション能力を飛躍的に向上させるかもしれないと、塾生は皆この機会を心待ちにしています。当塾はもっとも小規模の塾ですが、それゆえに行き届いた個別指導が可能です。より学習効果を高め、個々のペースに合わせた指導が可能なため、英語学習に取り組み意欲がさらに向上しています。塾生はじめ教員は、このような環境を与えていただき、大学および野学園に対してたいへん感謝しています。



活動であれ遊びであれ、時間は同じく流れます。とにかく好きなことな活動であれ、遊びであれ、時間は同じく流れます。これは、我々担当者三人の持つ情熱が、学生諸君のやる気や動機づけとなり、受け入れてもらった

会計専攻塾

担当教員 教授 新谷 典彦 (簿記原理・高等簿記)
助教 今井 敏博 (会計学総論・制度会計論)
助教 西村 淳 (交通論・地域問題論)

担当教員の情熱が学生を動かす
学生たちの笑顔が私たちの成果です



会計専攻塾を担当して、早くも一年が経過しようとしています。塾生は二十九名です。すでに各人が各様の学生生活に慣れ、元気で明るく頑張っている姿が嬉しいですね。慣れや疲れからか、自覚も自立も目立つようになり、活動であれ遊びであれ、時間は同じく流れます。これは、我々担当者三人の持つ情熱が、学生諸君のやる気や動機づけとなり、受け入れてもらった

で継続できるものだから、要は切り替えと自覚の大切さを知ってほしいとお願いしています。学習面では、少し格差がついたように思われます。基礎の部分こそ大切ですから、再確認のための個別指導が必要となりました。「珠は磨けば光る」ものですが、気配りと心配りを意識しながら、連絡を密に取り、日常の会話と接する時間をより多くとるなどして、個別のアドバイスを大切にしたいと思っています。それは、我々担当者三人の持つ情熱が、学生諸君のやる気や動機づけとなり、受け入れてもらった

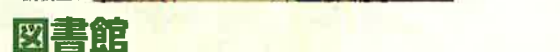
新講義棟



写真手前がリラックスコーナー、奥がパソコンコーナー



▲学生ホール



講義室

図書館



閲覧コーナー



▲リラックスコーナー



共同学習室

■新築・増築部の概要

	構造	建築面積	延床面積
●講義棟	鉄筋コンクリート造3階建	712.35m	2,137.05m
●図書館	鉄筋コンクリート造2階建	352.80m	750.86m
●音楽スタジオ	鉄筋コンクリート造1階建	192.85m	192.85m

函館大学では、平成十三年度から専攻塾・コース制度をスタートしたのに伴い、新講義棟・音楽スタジオの新築と図書館の増築を進めてきました。三棟とも昨年四月に工事を着工し、音楽スタジオは九月に、新講義棟・図書館増築部は十一月に完成。十一月十二日には関係者が集まり、完成を祝う竣工式が行われました。

新たな講義棟は、主に専攻塾の授業に利用され、ここが教員と学生が人間的に密にふれあつていく教育の舞台となります。また、図書館は、従来の約一・五倍の広さになり、今後の蔵書の増加にも十分に対応でき、ゆとりある空間は自学自習の場としても快適な環境となりました。音楽スタジオは九月に完成し、課外活動に活用されています。音楽系の大学以外で、音楽専門のスタジオを持つ大学はおそらく他にはないでしょう。野又肇理事長は、この三棟の完成に対し「この新しい施設を利用して、さまざまな分野のスペシャリストを育成し、有能な人材を輩出したい」と、大きな希望を抱いています。

音楽スタジオ



スタジオは3ルームがある



校舎から独立して新築された音楽スタジオ

教育の充実と多彩な人材育成を目指し、講義棟・音楽スタジオを新築、図書館を増築



休み明けから塾生全員がノート型パソコンを購入し、塾教室や自宅で各

自のパソコンを利用してできるようにしました。新築された塾講義棟の教室には、学生全員分の情報コンセントが用意されており、これを通してインターネットを自由に利用できます。授業以外にも自分のパソコンでインターネットを楽しむ姿が見られるようになりました。このように、学生たちが授業時間以外にも「集い楽しめる教室」の考え方は、野又理事長による塾コンセプトの一つです。



一年次は基礎学習に重点を置き、二年次からの専門的な学習につなげていきます

ビジネス・アスリート専攻塾は、スポーツや武道に関心がある、あるいはそれに親しんでいるという学生の資を生かしたという科目で、ウェイト・トレーニングの基礎理論や実習、「バイ

シク・イングリッシュ」は二年次配当の「スポーツ・イングリッシュ」を学ぶための基礎的学習を行っています。また「基礎演習」という科目では、著名なスポーツマンが書いたエッセイを素材に、その生き方やものの見方・考え方について話し合った

今年度の学習成果を土台に、より高度な内容に進む二年次に大きな期待を持っています。

また、ITを使いこなすために、夏当塾では、どの塾科目の授業においても、何らかの形でパソコンを利用するようにしています。例えば、特設演習情報と表現では、手紙や報告書の書き方といった文書表現方法の習得や、口頭発表の学習にパソコンを活用しています。教員からの一方的な講義と異なり、パソコンを使いながらの学習が好評です。

また、ITを使いこなすために、夏当塾では、どの塾科目の授業においても、何らかの形でパソコンを利用するようにしています。例えば、特設演習情報と表現では、手紙や報告書の書き方といった文書表現方法の習得や、口頭発表の学習にパソコンを活用しています。教員からの一方的な講義と異なり、パソコンを使いながらの学習が好評です。

担当教員 助教授 三浦 俊和(体育講義・体育実技) 助教授 田中 弘樹(英語 他) 助教授 寺田 隆至(経営史・産業構造論) 専任講師 日野 隆生(商学総論・商学演習)

情報・商業教職専攻塾では、三人の教員スタッフが週一回ずつの授業ながら、塾生一人ひとりの性格や個性を把握し、いよ

は、我々スタッフの予想をはるかに超えていました。そこで我々スタッフも、彼らのやる気を高める指導に本気で取り組まなければ、こまめに情報交換しながら日々努力を重ねています。

授業については、鈴木が心理学の立場から教職教養の基礎を、佐藤が将来的採用試験に的を絞った実践的な一般教養を、会沢が教師としての資質を磨くためのスピーチやさまざまな体験学習を、三人のスタッフがそれぞれ工夫を凝らしながら、学生と一体となった授業を心がけています。

IT専攻塾は、パソコンやインターネットなどのIT情報技術を自由に使いこなせる高度なビジネスマン、ビジネスレディの育成を目指し教育を行っています。現在塾生は三十六名で、パソコンやインターネットを楽しまながら勉強しています。今年度スタートしたばかりの塾制度は、学生たちにとっても、私たち教員にとっても何もかもが「新しいこと」の連続だったように思います。そのようなIT専攻塾の「新しいこと」をご紹介します。

当塾では、どの塾科目の授業においても、何らかの形でパソコンを利用するようにしています。例えば、特設演習情報と表現では、手紙や報告書の書き方といった文書表現方法の習得や、口頭発表の学習にパソコンを活用しています。教員からの一方的な講義と異なり、パソコンを使いながらの学習が好評です。

担当教員 教 授 若松 裕之(管理会計論・原価計算論) 助教授 津金 孝行(情報学論・経営情報システム論) 専任講師 田中 浩司(日本経済史 他)

情報・商業教職専攻塾 正義(教育原理・教育行政学) 専任講師 佐藤 義博(論理学・哲学) 専任講師 会沢 信彦(心理学・教育心理学・教育相談)

一年次は基礎学習に重点を置き、二年次からの専門的な学習につなげていきます

今年度の学習成果を土台に、より高度な内容に進む二年次に大きな期待を持っています。

IT専攻塾は、パソコンやインターネットなどのIT情報技術を自由に使いこなせる高度なビジネスマン、ビジネスレディの育成を目指し教育を行っています。現在塾生は三十六名で、パソコンやインターネットを楽しまながら勉強しています。今年度スタートしたばかりの塾制度は、学生たちにとっても、私たち教員にとっても何もかもが「新しいこと」の連続だったように思います。そのようなIT専攻塾の「新しいこと」をご紹介します。

担当教員 教 授 若松 裕之(管理会計論・原価計算論) 助教授 津金 孝行(情報学論・経営情報システム論) 専任講師 田中 浩司(日本経済史 他)

情報・商業教職専攻塾 正義(教育原理・教育行政学) 専任講師 佐藤 義博(論理学・哲学) 専任講師 会沢 信彦(心理学・教育心理学・教育相談)

一年次は基礎学習に重点を置き、二年次からの専門的な学習につなげていきます

今年度の学習成果を土台に、より高度な内容に進む二年次に大きな期待を持っています。

マーケティングコース

企業戦略に欠かせないマーケティングを学ぶ

●教育目標

マーケティングとは、どのような製品が、どのようなお客様に望まれているのか、それをどのように知らせるのか、ということを中心としたもの、それが売れる仕組みを作ることです。製造から流通、販売、広告・宣伝までの理論を学びます。

●コースの特徴

このコースで学んだ実力を試す場として、「販売士(3級)」級の資格があります。販売士の資格取得のための科目も用意しています。

●主な科目

- 「マーケティング総論」マーケティングの構造と基本的な知識の理解する。
- 「商学総論」商業全般の仕組みを理解する。
- 「マーケティング・リサーチ論」顧客ニーズや他社の戦略等を調査する手法を学ぶ。
- 「マーケティング・マネジメント論」企業活動の指針としてのマーケティングを考える。
- 「広告論」広告宣伝の理論と実際を理解する。
- 「商業デザイン論」商品のデザインや広告のデザイン等を学ぶ。

経営コース

企業経営の根本を知りマネジメントを学ぶ

●教育目標

人をどのように動かす、企業の目標達成に向かっているかを考えるのが経営者です。人と組織、リーダーシップと管理など、経営学を実践的に学び、将来、企業の管理・運営に役立つことを目標としています。

●コースの特徴

実際企業で活躍されている多くの方を講師としてお招きしている科目を多数設置しています。企業経営について、実際に経営している立場から聞くことができます。

●主な科目

- 「経営学総論」経営学全体の体系と基本的知識の理解を目指す。
- 「経営管理論」より実践的な視点から組織と経営の関係を考える。
- 「労務管理論」人間関係や能力開発など人間の視点から企業を考える。
- 「経営分析論」企業の状況を判断し問題点を探る。
- 「国際経営論」国際化の中で企業がどのように対応していくかを考える。
- 「経営情報システム論」情報と経営の関係を考える。
- 「管理会計論」会計の視点から経営を考える。

金融コース

経営計画に欠かせない金融・財務を学ぶ

●教育目標

企業活動には、資金が必要であり、資金の調整をするのが金融の役割です。こうした調整は、市場には銀行、株式、社債、保険、為替などの市場を通して行われます。金融について、経済との関係を見ながら実践的に理解していくことが、このコースの目標です。

●コースの特徴

実際に金融機関で活躍されている方を講師にお招きしている、他大学にない実践的な学修が期待できます。さらにファイナンシャル・プランナーの資格取得を目指します。

●主な科目

- 「経済学」ものの流れや資金の流れの仕組みとしての経済を理解する。
- 「経済原論」経済を理論的に理解する。
- 「金融論」金融の基本的な役割とさまざまな市場の特徴を比較しながら理解する。
- 「証券論」資金調達のための株式・債券、資金運用のための株式・債券を学ぶ。
- 「生命保険論」生命保険の仕組みや商品についての基本知識を学ぶ。
- 「損害保険論」損害保険の役割・仕組みについて理解し、今日的な考察を行う。

商学と具体的なビジネス形態をクロスさせた 国内大学ではユニークな

六つのコース

専攻塾が、指向性が高くより深い学修を目指しているのに対し、コースは幅広い学問領域の基礎知識を身につけ、興味を持った分野は選択科目によって追求していくことができる、自由度の高いものです。そして、将来の業種や職種を想定して、実践的な講義を設けているのが特徴です。その実践的な講義を展開するのが、多彩な業界から招いた企業人等特別講師です。企業現場の貴重な体験や現実社会の話を感じることが出来ます。「マスコミと出版ビジネスコース」、「芸能ビジネスコース」など国内大学にはないユニークなコースも開設しています。

企業法コース

企業内での法律のスペシャリストをめざす

●教育目標

今日の企業は、環境問題、製造物責任法、経営者責任などさまざまなトラブルに巻き込まれる可能性が高まっています。こうした問題に対処するには、ビジネスマン一人一人が法律を理解し、対応を怠らないようにしなければなりません。本コースは企業に関わる種々の法制度を学び、実践の場で活用する能力を養うことを目的としています。

●コースの特徴

このコースで学んだ実力を試す場として、ビジネス実務法務検定(1級)3級や法学検定などがあります。これらの資格は、企業でも業務評価にも加えられています。

●主な科目

- 「法学」法の社会的役割と基本的な体系を理解する。
- 「債権法」債権の基本を理解し、実社会で法律問題に直面した時に判断できる基礎力を養う。
- 「物権法」抵当権について様々な事例を基に解説し、法的問題の解決方法を理解する。
- 「商法総論」企業間の取引、企業と個人の商取引における契約内容をいかに解釈し、法をどのように適用させるかを判例に基づいて考える。
- 「会社法」会社の法形態や特色を知り、また株式会社を中心に会社に対して商法上のどのような法規制があるかを学ぶ。

マスコミと出版ビジネスコース

マスコミと社会の関係を考察し情報発信者となる

●教育目標

現代ビジネスにおいて、マスコミを無視することはできません。そこで本学においても、マスコミを研究するコースを開設しました。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、その他出版、インターネットなど各分野の総合的なマネジメントができる人材養成が目標です。

●コースの特徴

マスコミ関連科目には、多彩な特別講師陣を配っています。放送局・新聞社・出版社、さらにはノンフィクション作家などが、メディア論や言語・文章表現の講義を展開します。

●主な科目

- 「マスコミ情報論」マスコミの機能や現状を様々な角度から検証・分析する。
- 「実践コミュニケーション論」話して伝える、書いて伝える、楽しんで、方法論を学ぶ。
- 「メディア論」各メディアの発達史を検証し、今後のメディアの方向性を探る。
- 「出版ビジネス論」日本の出版ビジネスの現状を理解する。
- 「取材と記事制作」新聞の取材、制作の現状を学び、マスメディアの問題点を探る。

芸能ビジネスコース

芸能・イベントを知りプロデュース能力を養う

●教育目標

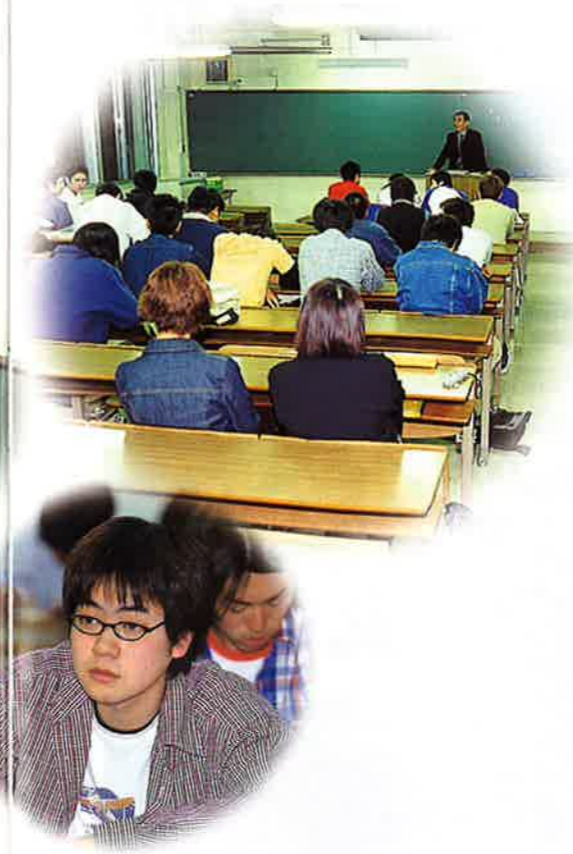
芸能ビジネスは、商品(タレント等)やイベントのプロモーションであり、またそれを運営する企業経営です。そのためのマーケティングやマネジメント論、さらに経営学や法律などの知識を持ち合わせ、創造的マネジメントやプロデュース能力をもった人材を育成します。

●コースの特徴

芸能ビジネス関連科目では、芸能レポーターの梨元勝氏をはじめ、レジャー施設、ホテル業界、レコード会社、テレビ・映画製作などから多彩な特別講師をお招きしています。

●主な科目

- 「芸能社会学」芸能ニユースを振り返りながら、その時々々の社会状況を分析する。
- 「映像文化論」映像メディアのメカニズムとビジネス形態を分析する。
- 「音楽ビジネス論」音楽を中心としたソフト・パッケージ・ビジネスの歴史・仕組みを学ぶ。
- 「レジャービジネス論」日本人のレジャー産業を実例を通して学んでいく。
- 「大衆音楽文化論」日本の大衆音楽流れを具体的に検証し、エンターテインメント・ビジネスの成り立ちと今後を考察する。
- 「テレビドラマ制作論」テレビドラマの制作過程を解説し、「伝える」ことの表現力・説得力を学ぶ。



『何が勝負を決めるのか』



客員教授 吉野 源太郎
日本経済新聞社論説委員
「マスコミ情報論I」担当

米国から送られてくるテレビ画面が、イチローを真似るアメリカの少年たちの姿を映していた。右手を真つすぐ投手の方に突き出してバットを立てて構え、左手で右肩をさわる、あのおなじみのしぐさである。

大リーグに移るやいなやいきなり頂点に登り詰め、現地の少年たちの憧れの的になる。すごい選手が現れたものだと思っ。

しかし、こんなすごいイチローも日本のプロ野球に入った時は、「ただの人」だった。一九九一年のドラフト会議で愛工大名電高校の鈴木一朗はオリックスの四位に指名されたが、この年の高校の注目選手は甲子園で大活躍した天理高校の谷口君という投手だった。彼は巨人の一位

に指名され、イチローの話題を取り上げたマスコミはほとんどなかった。それから十年。イチローは大スターになったが、一方、谷口投手はほとんど実績を残さぬまま他球団にトレードされていった。甲子園のスター、巨人のドラフト一位というブランドは何の役にも立たなかったのである。この話は僕にいろんなことを考えさせてくれる。イチローは天才なのか。谷口投手はなぜ大成しなかったのだろうか。

プロ野球は実力の世界なのだから優勝劣敗は仕方ない——多くの人はそういう言い方をする。気の毒だけど谷口君はほかの世界で出直すことを考えた方がいい、というわけだ。

この理屈には二つの前提がある。第一にイチローも谷口君も努力して競い合った結果、優劣が決まったということ。第二には、野球以外の世界、つまり普段自分たちが暮らしているところは必ずしも「実力の世界」ではないという前提だ。本当にそうだろうか。僕は疑問に思う。

まず第一に、イチローの努力は並みの努力ではなかった。普通の選手なら「死にものぐるい」という表現がふさわしいようなすごい練習を三六五日欠かさない。それは今でも変わ

らないという。天才は初めから天才だったわけではないのだ。一方の谷口投手がどれほど努力したか僕は知らない。だが、彼以外にもドラフト一位選手が一軍にも上がれず消えていく例は少なくない。何人かのプロ野球の監督に取材したことがあるが、彼らは皆、「プロに入ってくるほどの選手の素質にそれほど大差はない」と言っていた。ドラフト一位の選手がつぶれていくケースの多くは、彼らが最初から一人前であるかのように錯覚し、努力がおざなりになってしまっただけという。

次に、ふつうの世界は実力がすべてではないという話。確かに今まではそうだったとも言える。学歴が重視され、コネやカネ、親の力がものを言うのが日本の社会の一面の現実ではあった。だから、たぐさんの若者が良い高校を出たい、有名大学に入りたいたいと懸命になる。

しかし、世の中は変わり始めた。例えば九七年に破たんした北海道拓殖銀行は北海道のエリート学生の就職先だった。前途洋々の未来を信じていた彼らの多くが、ある日突然、自分より数段、偏差値が低いと思っていた北洋銀行の行員に使われる身分になった。いわば銀行界の「谷口

君」になってしまったのだ。有為転変、人生はどう転ぶか分からない。ブランドや肩書きが通用しにくい世の中になってきたのだ。だが、この話の教訓はそれだけではない。拓殖の行員の中にも日ごろ自分なりの努力で専門家としての力を身につけていた人たちがいる。彼らには拓銀破たんと同時にいるような企業から誘いがかり、好条件で転職していった。この事実はとても重要な。

企業の倒産が多発する厳しい社会がやってきた。しかし、その中で進む変化は悪いことばかりではない。人間の身や実力とは何の関係もない肩書きやブランドが意味を持たなくなる社会は公平な社会と言うべきなのだ。

大学生生活とはもともと世の中に出るまでの準備期間だ。この当たり前のことが今、改めて問い直されている。大学卒の肩書きを身につけることが大切だった学歴社会はもう終わりがた。大学は学生が本当の実力を身につけ、豊かな感性を育てる場所であらなければならない。

私の母校

北海道函館西高等学校

私の母校・函館西高等学校は、たぐさんの自然と、異国情緒漂う多くの歴史的建造物に囲まれた、自由な校風の高校です。私はここでかけがえのない多くの友人と出会い、親身になって相談のつてくれる心温かい先生方に囲まれ、忘れがたい三年間を過ごしました。

函館山の麓にある西高からは、四季折々の美しい景色が見られ、特に部活の帰りに見る函館の夜景の美しさは忘れられません。その他にも、周りには教会群があり、こうした環境の中で高校生活を過ごし、ますます函館の街が好きになりました。毎朝きつい坂道を登り、友達と笑い合った三年間の日々は、私に大切なことを学ば



櫻井セリナさん (3年)

せてくれ、決して忘れることのできない一生の宝物となっています。今でも、つまづくことがあったり辛いことがあると、高校生活を思い出し勇気をもらいます。たぐさんの思い出を作ってくれた西高が、私は今でも大好きで、西高に通えたこと、西高の生徒だったことに誇りを持っています。函館西高は胸を張って自慢できる、素晴らしい高校です。

新潟県立

村上桜ヶ丘高等学校

私の母校・村上桜ヶ丘高等学校は、その名のとおり、春になると桜の花に囲まれる高校です。

「農業科」「農業経済科」「林業科」「商業科」「情報経理科」の五学科がありました。昨年からはシステムが変わり「総合学科」となりました。そうになったことで、より多くのことを幅広く学ぶようになりました。学校の特徴としては、あえて指導されているわけではなく、来校者に対して元気に明るく挨拶をします。先生と生徒はとても仲が良く、私は本当に有意義な高校生活を送ることができました。



渡邊 加代さん (2年)

学習面や資格検定と同様に、各種部活動も盛んで、私は少林寺拳法部に所属していました。毎日の練習で辛かったことも、試合で勝てなくて悔しかったこともありました。先輩や後輩とともに頑張った中で、継続して努力して、何かをやり遂げることの大切さを学びました。高校三年間で、自分を大きく成長させることができたと思います。

北から南から 出身校紹介

100年の歴史を持つ公立校 芥川賞作家・辻仁成の母校

明治38年、北海道庁立函館高等女学校として開校。100年におよぶ歴史の中で、芥川賞作家の辻仁成をはじめ、各界で活躍する人材を輩出しています。

校訓は「志高く～理想を求め、真理を探究し、情操豊かに生きる～」とし、自律の精神や強靱な意志、豊かな情操などを教育目標に掲げています。

学習指導では、1・2年生では「基礎学力の向上と充実」に重点を置き、3年生では「類型別」を設けて主要教科の選択の幅を広げ、個々の多様な進路目標に対応できるようにしています。また英語検定、書道硬筆検定、ワープロ検定などの資格取得指導や、LL、語学機器、パソコンなど最新の設備を活用した授業も充実しています。海外留学にも取り組み、過去にカナダ、オーストラリアなどの交換留学も行っています。



函館西高等学校
函館市元町7番17号
TEL (0138) 23-8415 (代)
FAX (0138) 22-3235
創立：明治38年

部活動も盛んで、過去にはオリンピック代表選手を輩出した実績もあります。最近ではボート部、陸上部、放送局などが全国大会に出場、好成績を残しています。

平成13年度から「総合学科」に改編 自由な校風でのびのびとした高校生活を

村上桜ヶ丘高校は、「農業科」「農業経済科」「林業科」「商業科」「情報経理科」の5学科編成を改め、すべてを統括した「総合学科」として平成13年度より新たなスタートを切りました。

総合学科は、2・3年次での必修科目を大幅に減らし、総合選択科目として人文科学、自然科学、農業・園芸、森林環境、ビジネス、情報、生活福祉、地域学の系列から、自分の進路に合わせた科目を系統的に選択・学習できるようになっています。学科という枠にとらわれない、自分の関心のある科目を学ぶことで、個々の進学や就職に向けて必要な学力や技能を養えるようになっています。部活動では、少林寺拳法部が県内でトップレベルの成績をおさめています。

校名の通り、校庭には桜の木があり、春になると桜の花が見事に咲き誇ります。



新潟県立村上桜ヶ丘高等学校
新潟県村上野野桜ヶ丘10番25号
TEL (0254) 52-5201 FAX (0254) 53-6810
創立：明治45年

平成十三年度の就職戦線をふり返って

厳しい就職環境の中でも 前向きな選択を

平成十三年度の就職戦線もほぼ最終局面を迎え、就職内定者は春からの社会人生活に期待をふくらませています。長引く経済不況の中、厳しい就職戦線が続いていますが、今年も学生たちの健闘が目立ちました。

また次年度の就職戦線に向け、現三年生を対象とした就職指導も本格的に動き始めました。就職活動の動きや内定が年々早まっている今、本学でも早期から就職指導に取り組み、優位に就職活動が進むように、就職部・教職員が一丸となったバックアップ体制をとっています。

前年度の内定率より若干低下 より早期からの取り組みが肝要



就職部長 教授 溝田 春夫

私事ではありますが、就職部を担当するのは、ちょうど十年前の平成三年以来で二回目になります。前回担当した当時は、バブル経済の終盤に当たり学生の就職も好調で、今では入社するのが難しい大企業にも多くの学生が内定し、それもいくつも重複して内定をもらった時代でした。現在は十年前の経済状況と大きく変わり、学生にとっても就職環境の厳しい時代になっています。平成十三年十一月の月例経済報告によれば、「景気は一段と悪化している」

状況であり、完全失業率は五・四％に達し、経済成長率も大幅下方修正し、二年連続マイナス成長という過去最悪の状態です。

このような中、本学の本年度の就職状況は、求人数は十一月末現在で七六四件（昨年同期六九〇件）と昨年度を上回っていますが、内定率は逆に昨年度を下回っています。就職戦線も当初の見込みと違い、後半に入ってから厳しさを増しているようです。こうした厳しい環境下でも努力次第でまだ可能性は十分ありますので、未内定の学生は就職部と相談しながら内定に向けて最大限の努力をしてほしいと思います。

企業を選ぶ時、企業の規模や将来性、業種や職種、勤務地、給与など人それぞれ基準で判断するのですが、要は自分



▶ 三年次十月の就職ガイダンスを皮切りに、本格的な就職活動へと突入していく。

一流企業のリクルーターを招いて開催される就職講演。

就職ガイダンスは、3年次の10月から本格的にスタートします。このガイダンスは決起大会に始まり、就職活動体験発表会、模擬面接、適性検査、エリア別採用情報提供、就職合宿セミナーなど、およそ3カ月間にわたって展開します。教職員はもちろん、企業の人事担当者や4年生の就職内定者などから、様々な角度で採用情報を提供していただき、就職活動に対する意識と活動テクニックの向上を図っていきます。

の職業観、人生観をしっかりと持ち、納得した就職をすることが大切なことではないでしょうか。
就職部では、できるだけ学生各自の希望にあった就職ができるよう、次に示すように様々な支援を行っています。
三年生の後期から就職ガイダンスを毎週月曜日に実施し、就職に関する様々な情報提供を行い、面接の受け方、適性試験、講演会などを通して就職意識の高揚と就職活動のテクニックの習得に努めています。数年前から採用募集や受験のエントリーをインターネットで行う企業が増え、インターネットの活用が不可欠になっていくことから、誰でも自由に使えるよう、IT関連設備の環境整備を進めるとともに、就職活動のためのインターネット講座も実施しています。また、公務員希望者には公務員受験対策講座を用意しています。二月には東京、札幌、函館を中心とした約七〇社近くの企業の人事担当者に函館に来ていただき、本学学生のための業界研究

会を実施します。ここに参加する企業はいずれも今までに本学卒業生を採用した実績のある企業が中心で、採用される可能性の大きい企業ばかりです。
さらに、多くの教職員が協力して、地元はもちろん札幌、東北、東京、関西など、主要都市の企業二〇〇社近くを訪問し、学生のための採用情報の収集と採用依頼をします。また就職部の教職員を中心に毎年札幌と東京で一〇〇社余りの人事担当者懇談会を開き、学生の採用の依頼をしています。
このようにできるだけ多くの学生が希望に沿った就職ができるよう全学あげて努力しています。学生に対する様々な就職支援を行うのは、卒業生一人ひとりがやり甲斐のある仕事に就き、充実した幸せな人生を送れるようすべての教職員が願っているからにはかなりません。就職部ではいつでも就職の相談を受け付けていますので、気軽に相談に来られることを願っています。

同窓生を訪ねて

サラリーマン経験を経て独立開業 ラーメン作りもまったくのゼロからスタート

ラーメンの王道 北浜商店
代表取締役 羽二生 季之さん（二十七回生・平成七年卒）



いま函館で、行列のできる店として話題のラーメン店が「北浜商店」。この北浜商店の代表取締役が函大OBの羽二生季之（はにゅう・ひでゆき）さんです。平成十一年の八月に第一号店を開店し、現在函館市内に二店舗を有しています。

ラーメン店の経営といっても、羽二生さんは単に経営者というだけでなく、自らラーメンの味を作り出し、厨房に立つラーメン職人でもあります。それは、「大学四年の時、野又学園の調理師学校に通い、調理師免許を取っていたからその時から、「いつか商売をするなら食べ物屋がいい」と思っていたか

らだそうなんです。でも、ラーメン店をやるうとまでは、はっきり決めてはいなかったようです。

函大卒業後は、重機ディーラーに就職し、二年間勤務。その後、実家の都合で、家業の呉服屋の手伝いを経験しました。そこで「やっぱり、自分で商売したほうがおもしろい」と、独立することを決意。かねてから思っていた食べ物屋、その中でラーメンブームに目を付けラーメン店の開業を決意しました。

独立開業のための資金繰りも、「親からの援助は一切受けない」とすべて自分で行い、そして、自分のラーメン作りを取り組んだそう

です。開業して二ヶ月は毎月赤字、半年後に月の収支がとんとん、その後は一気に人気が出て、多い日で一日四百食、店の前の国道が渋滞になるほどブレイクしました。

「次は、一気に札幌進出、もちろん全国展開を狙っている」と言います。「商売は、自分が努力した分だけ戻ってきます。このやりのいは、サラリーマンでは味わえない」。それと大事なのは、「人への感謝の気持ち。うぬぼれちゃいけない。これは、報恩感謝、学園訓の教えですかね」と笑います。



▲北浜商店本店

▼北浜商店エフロード店



頑張れ学生社長!!

函大生が起業して社長に? 二年・中筋 智君がタコ焼き屋を開業



中筋 智君 (アメリカ・ハイランドパーク高校卒)

函大二年の中筋智君が、昨年六月、函館市内にタコ焼き屋「たこ大」を開業させ、学生と社長の、二足のわらじで頑張っています。中筋君の実家は、東大阪市で会社を経営、その影響からか「自分で商売をすることは、自然な発想」と言い、大学でマーケティング研究会に所属し学んでいくうちに、「やってみよう」という気持ちが高まってきたそうです。

開業資金は親から借り、店舗選びから内装、周辺のリース、チラシ作りまで、マーケティング研究会の仲間に協力してもらいながら進めました。

経営を実際にやってみると「感覚は「一円を儲けることは大変」と、その感覚はまさに経営者。将来については「まず在学中に、親へ借金を返す。卒業後は、また新たなビジネスを考えたい」と言います。



E-mail:takkodai@jp-d.ne.jp

広がる国際交流の輪 今年度も四大学と 姉妹校提携

国際化社会への対応を早くから意識してきた函館大学は、ここ数年さらに国際交流の動きを積極的に進めています。今年度は中国の南開大学、イギリスのバーンス・スパ大学、ウォルバーハンプトン大学、チチェスター大学の四校と姉妹校提携し、海外姉妹校(アメリカ、オーストラリア、イギリス、中国)は、合計七校になりました。

また、カナダのモホーク大学、台湾の朝陽科学技術大学との姉妹校提携の準備も進んでいます。

函大では今後、姉妹校間での留学生交換や教員の研究活動の協力など、教育・研究に一層の国際化を推進して行きます。また英語圏の大学だけでなく、アジア圏の大学とも姉妹校提携を結び、目を世界にと国際交流活動の新たな展開をスタートさせます。

函館大学の海外姉妹校



■南開大学 (中国・天津)
姉妹校提携/2001年



■バース・ス大学 (イギリス)
姉妹校提携/2001年



■ウォルバーハンプトン大学 (イギリス)
姉妹校提携/2001年



■チチェスター大学 (イギリス)
姉妹校提携/2001年



■バララット大学 (オーストラリア)
姉妹校提携/1997年



■ハワイパシフィック大学 (アメリカ)
姉妹校提携/1983年



■ニューカッスル大学 (オーストラリア)
姉妹校提携/1996年

ハワイと留学生

今年度の留学生は、過去最多の六人を受け入れました。六人の留学生たちは、一年間函館で暮らし、函館大学で学び、人生の大きな経験を積んでくれるでしょう。



サムエル・シュワルツ
Samuel Schwarz
(オーストラリア・バララット大学より留学・25歳)

将来は日本で仕事がしたいと思っています。

僕は、三年前に東京で英会話教師をしたことがあり、それが日本との最初の関わりでした。その後オーストラリアに戻り、バララット大学に入学したのですが、向こうで日本語教師をしていた女性と知り合い結婚。それで日本をもっと知り、将来は日本で仕事したいと思って、その勉強のために函館大学へきました。日本人は皆とても親切ですね。函館はすごく風景のきれいな街で、毎日函館山を見てはきれいなって思っています。



ライアン・オリバー
Ryan Oliver
(オーストラリア・バララット大学より留学・19歳)

日本は憧れの国。

夢が叶ってすごく嬉しいです。父が剣道をやっている影響で、僕も剣道をやっている。日本は憧れの国でした。バララット大学へ入学したのも、日本へ留学したかったからです。今回は夢が叶って本当にうれいんです。父も留学に関してはとても協力的で喜んでくれました。もちろん剣道部で、みんなと楽しくやっていますよ。僕は教師になるのが夢で、オーストラリアで日本語と剣道を教えるのもいいし、また日本で英語を教えるのもいいなと思っています。とにかく、日本に来られたことが大きな喜びです。

ナイジェル・ボエティガ
Nigel Boetiger
(オーストラリア・ニューカッスル大学より留学・22歳)

異文化の生活を体験したかった。

十四歳の時に、サッカーの試合で日本に来たことがあるのですが、その時から日本は大好きです。今回の留学では、違う国の文化を体験することによって、国際的な感覚を養うのが目的です。ニューカッスル大学は学生が千五百人もいるマンモス大学ですが、函館大学は人数が少ないだけに皆とコミュニケーションがとれて、先生も学生もとてもフレンドリーです。僕は写真が趣味なので、函館の風景をたくさん写真に残したい。特に雪景色を撮りたいと思っています。



ブライアン・ニクラス
Brian Nickas
(ハワイ・パシフィック大学より留学・20歳)

日本文化をもっと知って将来は外交の仕事をする。

函館大学に来る前に、一年間大阪の桃山学院大学でも勉強していました。ハワイには日本人がたくさん住んでいるので、いつの間にか日本語を覚え、本格的に日本語と日本文化を勉強しようと思ったのです。函館大学では、日本語の他に日本文化論、日本語学の講義を受けています。将来は外務省など国際外交の仕事がしたいと思っています。函館大学は図書館やコンピュータの施設が充実しているので、それらを勉強に活用したいと思っています。



ベンジャミン・レイベン
Benjamin Raven
(オーストラリア・ニューカッスル大学より留学・20歳)

日本語を身体で覚えるために留学してきました。

オーストラリアでは小学校から日本語の科目があり、子供の頃から日本語の勉強が好きでした。高校・大学でも日本語を学んでいて、それで日本語がもっと上手くなるためには日本で暮らしてみるのが必要だと、留学の機会を狙っていました。函館は、古い西洋文化が残っていて、とてもユニークな街です。日本の歴史も、勉強してみたくまりました。将来は外務省に入るのが希望で、世界の国際交流に貢献したいと思っています。



ルーベルト・ヴィンセス
Robert Vinges
(ハワイ・パシフィック大学より留学・23歳)

日本語と柔道を学べて二石二鳥です。

僕はノルウェー人で、大学はハワイ・パシフィック大学へ入学しました。十七歳の時に、柔道と勉強のために和歌山県で一年間暮らした経験があります。その時、日本の歌のテープをたくさん持ち帰ったので、日本語は忘れませんでした。カラオケは得意ですよ。函大でも柔道部に入っていて、柔道と日本語を学べて一石二鳥です。函館でも学生生活をすごく楽しんでいきます。将来は、国際ビジネスを舞台に仕事をしたいと思っています。



おかえりなさい留学生 ◆ 海外留学体験

函大で学び、そして海外で学ぶ。留学で得た素晴らしい体験。

交換留学生として、海外の大学で学んだ学生たち。それが素晴らしい経験をし、そして自らの将来の道を選ぶきっかけにもなったようです。海外留学生三人の、これらについて聞いてみました。



佐々木 英雄くん
(4年・岩手県盛岡商業高校出身)
●オーストラリア・ニューカッスル大学へ
2000年7月～2001年7月まで留学

英語を肌で知ってさらに興味がこの春、外語大大学院へ進学します

高校時代から、大学に進学したら海外留学したいと希望していました。そのためもあって、函大へ入学してからも留学のチャンスを狙っていました。

オーストラリアでは英語はもちろんです。英語の文法的な仕組みを学ぼうと、言語学の授業も選択しました。また、英語を学ぶためには授業だけでなく、地元の人たちとのコミュニケーションが大事だと思い、サッカー部に入って授業以外でも

きる限り話をする時間を作りました。みんなフレンドリーで、とても楽しかったです。

こうして英語を肌で知っていくと、もっと深く勉強したくなって、この春から名古屋外国語大学の大学院へ進学することにしました。海外留学を経験しなかったら、きっとこのような進路の選択にはならなかったでしょう。将来は、貿易など国際ビジネスの舞台で活躍したいと思っています。

海外留学を経験して、自分のやりたいことが見つかった

僕は大学二年の夏から三年の夏にかけて、一年間オーストラリアに留学しました。目的は、英語を話せるようになったい、と思ったからです。

留学経験が生きたのは、函大へ戻ってからでした。僕はハンドボールをやっていた、昨年冬、北海道の学生選抜としてオランダ・ドイツへ遠征してきました。その時、英語で向こうの人たちとコミュニケーションがとれたり、他のメンバーのお手伝いもすることができました。また、オーストラリアでの留学



市瀬 祐樹くん
(4年・山梨県駿台甲府高校出身)
●オーストラリア・バララット大学へ
1999年7月～2000年7月まで留学

経験が生かせる仕事につきたいと思い、志望先を旅行会社に絞りました。希望通り東京の旅行会社へ就職が決まり、春からスタートです。就職活動では、留学経験を大

いにアピールしました。自分の将来の道が開けた、そういう意味でも留学は僕の人生にとって大きな意味を持ちました。

「ブレイブハート(勇敢な心)」で自分の可能性に挑戦していきます

僕の留学の目的は、英語を学ぶこと、外国のスポーツサイエンスを学ぶことでした。僕はずっと野球をやっていたので、スポーツのコーチ学や、スポーツビジネスを学びたかったのです。留学中は、バララットのオーストラリアン・フットボールクラブに所属し、ゲームにも出してもらいました。日本人初の選手、ということで地元の新聞にも紹介されたんですよ。このクラブで、社会人の人たちとも接し大変勉強になりました。向こうの人が、僕のことを「ブレイブハート(勇敢



北 康彦くん
(4年・兵庫県滝川第二高校出身)
●オーストラリア・バララット大学へ
2000年7月～2001年7月まで留学

な心)だと言ってくれました。向こうでできない事に挑戦しよう、と思っていたのです。嬉しかったです。向こうの小学校や高校

で、日本語の授業を教えるサポートもしました。このことがあって、函大卒業後は、教員資格を取るつもりです。これからも「ブレイブハート」で、自分の道を進んでいこうと思っています。

現在の私の出発点は、函大時代の海外留学でした。

「函大時代の海外留学がなければ、現在の私はないでしょう」という横溝さん。語学力を活かし、国際的な企業での仕事を経て、現在は海外留学エージェント業を独立開業しています。横溝さんにとって、海外留学経験はどのような価値を持っているのか、原稿を寄せていただきました。

有限会社バディーズ・インターナショナル 代表取締役 横溝 泰子さん

(旧姓江藤)十九回生・昭和六十二年卒

一年間の留学で身に付いたもの

私が函館大学を卒業して、もう十五年が経とうとしています。しかし今の私にとって、大学時代の貴重な経験が大きな宝となっています。

私は函館大学を卒業後、カシオ計算機株欧米貿易部で海外営業、(株)JTBサポート・インターナショナルにて海外ツアーコンダクターを経て、現在(有)バディーズ・インターナショナルで留学エージェント業を行っています。これらの仕事をとっても、ベラスになったのは函大時代の留学経験がなければ、これらの仕事には就けなかったでしょう。留学経験を基にさらなる経験がプラスされ、それぞれの仕事にステップアップ

卒業生特別寄稿



有限会社バディーズ・インターナショナルについて詳しく知りたい方は、ホームページをご覧ください。
http://www.buddies.co.jp

毎日の宿題も半端な量ではなく、ウィークデーには遊ぶ時間などほとんどもない状況でした。特に英語力のままならな私にとっては、毎日の宿題と復習だけでも終わらなほほどでした。留学前に描いていた楽しい夢の留学生活とは、かけ離れた生活のように感じたものでした。しかし今振り返ると、とても良い、実りある経験だったと思います。多分、

あの時あの毎日乗り越えていなければ、今こうして語学力を活かした仕事に就くことはできなかったでしょう。しかし、もちろん大変なだけの留学生活ではありませんでした。勉強の大変さと同じくらい、楽しい思い出もいっぱいあります。週末のイベントや一般学生とのふれあいはもちろんのこと、ホストファミリーとのふれあいや私にとっては大きなものでした。留学中の長期休みにはホストファミリーのお宅にホームステイさせていただき、私たちはいつしか国境を越え、言葉の違いを越えて家族と思える間柄になりました。その関係は帰国後も続き、十五年以上経つ今は、私の子どもたちも「ハワイのおじいちゃん、おばあちゃん」と呼ぶような、家族ぐるみのお付き合いをさせていただいておられます。ハワイは私にとっての第二の故郷となりました。私はこのようなことが、本当の意味での「交換留学」なのではないかと思っています。本当に語学力、海外生活経験、国民性の違いなど、あの一年間で身に付いたものは大きかったと思います。

「目的」と「やる気」の大切さ
現在、私はあの時の自分の気持ちになつて、留学される方へのアドバイス、留学手続きを行う留学エージェント会社(有)バディーズ・インターナショナルを経営し、インターネット上で営業しております。自分自身の留学経験を基に、お客様の不安や疑問にお答えすることで、留学される方のお手伝いができ、喜んでいただける現在の仕事に、非常に

やりがいと喜びを感じております。こうして今も自分の適性を活かした、やりたい仕事を続けていられるのは、函大時代の経験が大きかったとつくづく感じております。大学四年間の経験は、一

生の大きな宝となるはずですが、大学時代に「目的を持っていろいろな事に挑む」、「打ち込むものを持つ」ということは自分の将来のためにも大切なことだと思います。これは必ずしも留学とは限らないと思いますが、何であれ目的を持って挑むという事です。学生の皆さんも目的を持って、大学生活を過ごしてください。そうすれば必ずそれはあとから自分自身の力となるはずですが、



研究室から

論文名

リーダーシップ類型の因子構造 —三隅のPM理論を中心に—

高度成長期のPM理論が、今の現実とフィットするか

経営学では、企業経営・組織運営に深く関わる「リーダーシップ」が以前から研究の対象になっていました。リーダーシップ研究の世界的権威として、三隅二不二という人がいますが、彼は自身のPM理論で、リーダーシップの機能として、大きく次の二つをあげています。一つは、集団の課題解決ないし目標達成を志向するP(Performance)機能で、もう一つは集団の維持を志向するM(Maintenance)機能です。これを、ラジPモデルMとかスモールPラーJMとか、四つのカテゴリーに分け、それを類型としたのが、リーダーシップ機能の世界的にスタンダードな考え方の一つになっています。この三隅の理論をベースに、国内外の研究者・企業家が書いたものを付加して考察したのが、この論文です。

日本の六〇年〜八〇年代の高度成長期は、M型のリーダーシップを伝統的に持っていて、そうした企業の方が業績が高かった。しかし九〇年代になっ

て、エクセレントカンパニーという言い方がされてきた時代は、特段はつきりとした戦略がない企業が業績を伸ばしている。あいまいなまま意志決定をし、状況即応型の企業のほうが業績が高いという分析結果があるんですね。それで結論としては、三隅理論が発表されて半世紀近くになるわけで、同じ日本という風土でも、社会状況がまったく違ってしまっただけで三隅理論が現実とどうフィットするかを、改めて検証しなければいけないのではないかと、ということ。不況、変革の時代には、強力なリーダーシップが求められますが、今の時代に合ったリーダーシップの在り方を、皆さんも考えてみてください。



教授 高橋 真

論文名

安世高訳経典と荘子

コンピュータを使い、安世高訳経典と「荘子」の共通術語を検索

まず、安世高という人について説明しますと、二世紀頃、安息国(パルティア、現在のイラン辺りの地域)から中国に渡った僧で、二〇年間に三〇部ほどの教典を翻訳したと言われています。中国では当初、仏典の翻訳に携わったのは、こうした渡来僧だったんですね。



専任講師 佐藤 義博

それで「安世高訳経典と荘子」についてですが、仏典と中国の古典にどんな関係があるか不思議に思われるかも知れませんが、実は仏典を中国語に翻訳するときに、中国人に理解してもらうために、「論語」や「老子」、「荘子」などの術語を使って翻訳しているんですね。このことは、これまでも多くの研究者が取り上げていますが、仏典の中に中国の古典から類似する術語を探し出すのは非常に難しい。そこでコンピュータを使って、網羅的に安世高訳経典から「荘子」に出てくる術語を検索してみました。すると一五七の共通する術語が見つかっただけでなく、文章そのものが類似している例も四つほどあったんですね。実際にこれほどあるとは予想外でしたが、これでは、安世高訳経典が「荘子」の影響の下に翻訳されたと言っていると思います。

これからの研究については、第一に安世高訳経典は仏教経典の成立史という観点から見ると、たいへん重要な位置を占めていますので、できるだけ中国的に変容した部分を明らかにすることが、次に、できれば現代語への翻訳にも挑戦してみたいと思っています。

教養ゼミナール

専門ゼミへの準備 様々な出身地の学生で 県民性について論議しています

教授 安東 璋二



教養ゼミは一年次の必修科目で、二年次から始まる専門ゼミに向けての準備期間と聞いていいでしょう。安東先生は近代日本文学が専門ですが、この教養ゼミでは、学生が議論しやすいテーマを先生が設定してゼミを進めています。

今年のテーマは「県民性」です。ゼミ生六名の出身地が、函館、青森、福島、そして九州・福岡など様々なので、それぞれが各県にどのようなイメージを持っているか、また実際はどうかを話し合っています。また、地域によって異なる風習や習慣などを話し合いながら、県民性



の違いについて考えています。この日はまず、葬儀の順番についての話題となり、函館地方では通夜の前に火葬を済ませるという独特の風習があるそうです。普通は通夜の後に火葬し告別式となります。この風習の起源について、安東先生がいくつかの説を紹介して、それについて意見を交換していました。また、青森県でも同じ順番だという学生がいて、面白い事実が分かりました。

「県民性の違いを考えながら、風土と人間、さらには異文化を理解することにつながると思います」と安東先生。一年間のまとめとして、各自レポートを作成しますが、これは「論文を書く練習」になります。



教養ゼミの目的は、ゼミ形式の授業に慣れ、2年次から始まる専門ゼミにスムーズに移行できるようにするのが目的です。自分の考えを発表し議論する、練習の場でもあります。

不動産経済学
ゼミナール

近代資本主義の成立過程を究明し 現代社会の経済構造を考察する

特別講師 鎌田 孝男



本業は、不動産鑑定士でご自身で事務所を開設(昨年九月までは三菱信託銀行勤務)している鎌田先生は、特別講師として「不動産経済学」の授業と専門ゼミを受け持っています。

ゼミのテーマは、「不動産の証券化」。



この不動産ゼミがスタートしたが、昨年度からなので、二年目ということになります。ところが、今年の卒業生の中で二名が、不動産会社への就職が決定しました。現在三年生のゼミ生も、多くは「不動産会社へ就職したい」という希望をもってこのゼミを選択しているようです。宅地建物取引主任者資格試験にも挑戦したい、という学生が増えているそうです。全国でも合格率は約一割という難しい資格に挑戦する意気込みは、頼もしい限り。「不動産の知識は、どの会社でも役に立ちます。また、将来マイホームを持つときには、役立ててほしい」と鎌田先生は笑っていました。



不動産価格(特に地価)は、バブル崩壊後下落を続けているが、その中でも注目されている「不動産の証券化」、新しく解禁された「不動産投資信託」について研究する。

旭川生まれ埼玉育ち
今はすっかり函館人



●教授 石井 晋良

ヨーロッパを中心とする経済史が専門の石井先生は、埼玉から函館に来た二十四、五年。「実は生まれは旭川なんです。でも五歳の時には埼玉へ引っ越ししました。だから北海道とは無縁ではないんですよ。」

「気が付けば二十年以上ですから。最近では東京などに行けば、イントネーションが変わって言われる。言葉も函館なまりになってきたよ」と笑います。

好きな場所は「大沼。四季折々の風景が本当に素敵だ。それと函館山の夜景。これは世界一です。何度見ても感動的です」。もちろん、奥さんと結婚前に二人

で眺めたんですよ。ドライブも好きで、よく家族で北海道を回ったそうです。「道東で地平線を見たときは、やっぱり北海道は広い」と、実感したそうです。

「海のない埼玉で育ったから、海を見るのが好きなんです。海は外国に通じてるって思うと、夢や希望がわいてくる。人生のほぼ半分を函館で過ごしたことになる。「函館の人と結婚したし、このまま函館の人になっちゃおうかな」と言いますが、今ではすっかり函館の人ですよ。

堅物先生の望みは
エリートを作りたい



●助教授 藤嶋 暁

「労働管理論」が専門の藤嶋先生は、元シャープの人材開発センター所長という、まさに人材開発についてのプロ。「函大に来て七年になりますが、今また元の職業に戻ったら、それこそ超一流でしょうね」と言います。というも、函大での研究活動で「自分の理論体系がほぼ確立できたから」。

しかし「教育者としては三流かも」と笑います。企業では当然社会人を相手にするわけですが、学生を相手にすることにギャップを感じたとか。「講義では、時々話しの脱線も必要ですが、それができないんですね。だから学生には苦痛じゃないかな」。でも「こ

の学生は潜在能力が高いと思うんですよ。それをもっと学生たちに自覚してほしい。そして企業エリートを作ることが自分の望み」と言います。

奥様からも「あなたは堅物」と言われるようですが、趣味は「ゴルフや絵画など。中でも尺八は大学四年間尺八クラブで部長を務めていたそうです。「堅さを取る」と、「寅さん」や「釣りバカ日誌」を見てるんですけど、なかなか」。でも藤嶋先生が、寅さんやハマちゃんのようにも困りものですが。

昨年の中国旅行は
学生との二人旅



●助教授 坂野 学

中国文学が専門の坂野先生は、昨春秋に天津・南開大学との姉妹校提携調印式のために訪中。「南開大の教授陣は実力者揃い。私の教わりたいことがたくさんあるので、これからの交流に期待している」と語っています。

フライベートでも、毎年夏休みには数週間中国を旅行するそうです。昨年は初めて学生と一緒に中国へ行きました。「中国語の原書講読を行っているのですが、学生はたった一人なんです。苦しい。その学生と先生の、二人だけの中国旅行で、旧満州地方の日本が占領していた時代の歴史を見る旅だったよ」です。

「場所によっては、まだ強い反日感情や、日本人に対する反感があるかも知れないと思っていました。が、中国の庶民はたいへん優しい人ばかりでした」と坂野先生。「こうした外国の人たちの、日本人に対する反応を直に知ることは、学生にとってもいい経験だったんじゃないかな」と言います。

学生との旅行は、先生にとっても新鮮な出来事だったよう。でも、できれば中国語・中国文学の受講学生が少しでも増えて、今度は何人かと旅行がしたいものですね。

趣味はダイビング
潜りながら水中撮影



●専任講師 ブライアン・ダッフ

ダッフ先生の趣味はダイビング。四年前から始めて、函館の立待岬の海を潜り始めました。するとすっかりその魅力に取り憑かれ、今ではダイビングに関するライセンスを二十四も取得しています。「人間の未開拓部分は宇宙と海。その海に潜ると、いつも発見がある。本当に神秘の世界です」と言います。海外の海も、グアム、バリ、プーケット、パラオ、ジャマイカなどを潜ったそう。

そんなダイビング歴の抱負はダッフ先生が、昨年初体験したことは、タヒチのボロボロ島に行って、サメやマンタと一緒に泳いだこと。それと、オホーツク海で流

氷の下を潜ったこと「です。ごちうも素晴らしい経験だったと言います。ダッフ先生の夢は「インストラクターのライセンスを取って、函大でダイビングクラブを作ること。僕がインストラクターになれば講習料は無料です」。

函館の海の素晴らしさも絶賛。「あまり潜る人がいないので、魚も人に興味があるのが寄ってくるんです。それにイカやタコが泳ぐ姿も見られます。函館の海を潜りたい人は、ダッフ先生に案内してもらったらいいかな」。

野球部の生き字引
監督歴は32年



●野球部監督 宮腰 泰直

函大野球部監督歴三十二年になる宮腰さん。実際の監督歴はもっと長い。昭和四十四年に函大一期生として卒業した後、函大職員に就職。その時から正式に野球部監督となったのですが、学生時代から選手兼任のフレイインクマネージャーでした。まさに函大野球部の歴史そのものと言えます。野球監督は子供の頃からの理想だったそう。

函大野球部の歴史は起伏が激しく、北海道六大学リーグ制になったのは昭和五十一年からですが翌年の五十二年に初優勝。ところがその後低迷し六十年には一部リ

ークに落ちました。一部リーグに復帰した六十三年に一度目の優勝、北海道東北大会にも勝ち神宮大会の切符を手に入れました。ところが、昭和天皇のご病気でその年の大会は中止。今までの一番悔しい思いをしたと言います。

監督としてのモットーは「選手に嫌われること」。野球で勝たなくても、社会に出てから勝つと言います。そのためには嫌われても、嫌を厭わぬ。「大学野球が好き」と言う宮腰さん、「だって大学生と一緒。酒が飲めるじゃないですか。高校野球はこれがない」からだそうです。

お茶を入れるのが好き
特に紅茶がお気に入り



●教務課 荒木 弘子

荒木さんの好きなものの一つに、「お茶」があるそうです。その中でも「一番が紅茶で、一番は日本茶」とのこと。「お茶を飲む事はもちろん。入れた時にきれいな色に出ると、得をした気分になれるから」という事も理由の一つの様です。

ところで、お茶を入れるコツは？

「新しい茶葉であること。紅茶の場合は、沸かしたてのお湯であること。これだけでしょっか？」

お友達が同時に茶飲み友達でもあると話す荒木さんの周りでは、新しい紅茶が手に入ると、お互いに分け

あっているとのこと。

そこで今は、フランス土産に友達の一人在り買ってきたタロワイヨのティーパックが大人気。

「ティーパックなのに、ポットで入れたものにまけない位の美味しいんです。手軽で美味しいこと。これが私たちの人気のポイントです」と話します。

余程気に入ったのか「東京に行った者は、タロワイヨに寄って来る事」との取り決めが出来た程だそうです。

ちよつと歩いてみませんか

近代的ホテルが建ち並ぶ温泉街
夜はホテルの灯りと、海には漁り火が。

北海道を代表する温泉地・函館の湯川温泉。年間一〇〇万人以上の人が訪れます。元和三二(一六二七)年には湯庵があったと伝えられているので、四〇〇年近い歴史があります。箱館戦争の時には、榎本武揚がここに野戦療養所を作りました。今では、近代的なホテルが建ち並び、一年中賑わいを見せています。イカ漁の季節には、温泉に浸かりながら漁火を眺めると、旅情にもたつぷりとひたることができますでしょう。



早朝の湯川温泉街
豪華な温泉ホテル・旅館が建ち並ぶ温泉街。いつでも観光客の姿が絶えません。年間100万人以上の人が宿泊するという、北海道を代表する温泉街の一つです。



銭湯も温泉
この辺りの銭湯は、銭湯といっても天然温泉です。360円でいつでも温泉が楽しめるので、函館は贅沢な街ですね。



写真提供
上平教授著作「香雪園の四季と樹木」より

見晴公園(香雪園)
明治34(1901)年、素封家・岩船峯次郎が日本庭園造りに着手しました。遠くは埼玉、愛知県からアカマツなどを移入した、北海道では珍しい本格的な純和風庭園です。昭和34年に市が購入し、総合公園として整備。市民の憩いの場として親しまれています。特に紅葉の景色、雪景色は素晴らしいものです。



柏稜高校



啄木小公園

啄木記念小公園
函館の中心街から湯川温泉街に入る手前、大森浜に石川啄木の座像があり、その周辺が小公園になっています。座像は彫刻家・本郷新の作で、昭和33年に建立されました。台座には「潮かを北の浜辺の砂山のかの浜薔薇よ今年も咲けるや」の歌が刻まれています。座像の背後には、啄木一族の墓がある立待岬が見えます。

函館競輪場



JRA函館競馬場

市民会館

函大付属有斗高校



湯川温泉発祥之地碑
湯倉神社の正面右側の立つ碑が、その横には湯の川温泉の歴史を説明した看板が立っています。「湯の川」の電停からすぐの場所なので、湯川へ電車でも来たときには、まずこの碑を探してみてください。碑の建立は昭和22年。



トラピスチヌ修道院
わが国最初的女子修道院で、明治31年にフランスから派遣された修道女8人が、この地にやってきたのが始まりです。前庭までしか入ることはできませんが、それでも古くから函館の観光名所になっています。

見晴公園

函館大学

函館短大

トラピスチヌ修道院



湯倉神社

湯の川

湯の川温泉街

ラグビー場
熱帯植物園

函館市立熱帯植物園
昭和45年にオープンした植物園で、当初は温泉熱を暖房に利用していました(今はボイラー)。ヤシやゴムの樹など700種類もの熱帯性植物が茂っています。でも、人気はニホンザルのいるサル山で、冬の間はサル山のいけに温泉が引かれ、サルたちが入浴する姿が見られます。



函館空港



いい店食べ歩き
お食事の店 ビーバー

函大のそばで20年以上
夫婦で営む家庭的なレストラン



●山口 朋美 (3年・北海道登別南高校出身)
●山崎 明香 (3年・新潟県西新発田高校出身)

函館大学からすぐ近く、徒歩で三分ほどのところにある家庭的なレストラン。昭和五十三年開店です。もう二十年以上になります。「函大の職員の方は、学生の頃から知ってる人がたくさんいます」と笑うのは、このお店のオーナー・小林憲治さん。



お食事の店 ビーバー
函館市高丘町2-17
☎0138-57-4392
営業時間/10:00~22:00
定休日/年中無休

今回このお店を紹介してくれた、山崎さんは「下宿にも近いので、休日などによくここを利用します」。山口さんは「郵活で遅くなった時など、ここで食事をします」とのこと。二人のおすすめは、何と言

ケチャップでビーバーと書いたのをつぶすのはもったいなさそう。このオムライス、はじめは目替わりメニューの一つだったのですが、好評なので定番メニューになったとか。男子に人気なのは、中華焼きそば。あっさり塩味のあんこに具がたっぷり。ボリュームもたっぷりです。学生だけでなく、サラリーマンにも固定客の多いこのお店。小林オーナーご夫妻の、家族的なものでしょう。あなたも、オムライスのオムレツを割ってみませんか。

公開講座

平成十三年度下半期の公開講座 恒例「文化講演会」「落語高座」も ますます充実



公開講座実施委員長
教授 永盛 恒男

今年度の公開講座を振り返って

地域における学術・情報の公開を基本理念として、本学はこれまでも様々な講座を企画・開催してまいりました。今年度開催された講座は次の通りです。

まず上半期につきましては、六月に教養月間として「二十一世紀の人と社会」という共同テーマのもと、本学の四人の教員による、生物学、経営学、法学、哲学のそれぞれの専門の立場から講座を開催いたしました。また七月には、元プロ野球中日ドラゴンズ投手で現在タレントの板東英二氏による「超一流への道」という題の文化講演会を開催することができました。多数の聴衆からたいへん興味深くかつ面白いお話、と好評いただきました。

次に下半期につきましては、十月から十一月にかけて、本学の教員、企業からの外部講師による、ビジネスに関わる講座を四回シリーズで開催いたしました。豊富な実践ないし経験に裏打ちされた講座内容は、説得力に富み出席者からの評価も上々でした。また同じく十月には「落語高座」を開催いたしました。恒例の林家一門による高座です。今回は林家とんでん平師匠による手話落語と、三増紋之助師匠による江戸曲独楽の二つでした。手話落語につきましては、市内の障害者の方々にもご出席いただき、また本学からも手話通訳を二名を用意し、好評のうち高座を終了いたしました。今年一年の御支援、御協力に對しまして皆様に感謝申し上げるとともに、今後ともできる限り皆様方に興味関心を持たれる高座を企画・開催したく存じますので、なにとぞ本学の公開講座事業に對しまして御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成十三年度下半期 開催の公開講座

- 十月五日(金)
「江戸曲独楽」 三増 紋之助師匠
「手話落語」 林家とんでん平師匠
ビジネス月間講座
●十月六日(土)
「株式投資入門」
講師 佐藤 元治(本学専任講師)
- 十月十七日(土)
「楽しい貯蓄と投資の心理」
「焦らない 迷わない 妬まない 減らない 騙されない」
講師 磯村 元史
(本学客員教授、元東洋信託銀行副社長)
- 十月十八日(日)
「お金にまつわるあれこれ」
「自己責任時代に知っておきたいこと」
講師 太田 博史
(本学特別講師、野村證券支店長)
- 十月二十八日(日)
「実践商店経営」 興業を自指して
講師 日野 隆生(本学専任講師)



函大の公開講座事業の中でも、毎年恒例の「落語高座」が昨年十月五日に行われました。今回は三増紋之助師匠と、林家とんでん平師匠を招いての高座となりました。続いて林家とんでん平師匠による「手話落語」では、手話による「みそ豆」など古典落語が語られ、客席は笑いの渦に。また今回は、函大で手話通訳も用意し、市内の聴覚障害者の方々をご招待しました。聴覚障害者の方々も、落語の世界に引き込まれた様子でした。

毎年恒例の「落語高座」今年も披露



板東氏は講演の中で、「皆さんもどこかで優れたものを持っているはず。他より抜きん出ているもので超一流になって」と、独自の哲学を訴えました。集まった市民や学生たちは、きっとこの言葉に勇気をもったはずですよ。

板東英二氏を講師に文化講演会を開催
函大主催で毎年開催している「文化講演会」が、テレビタレントの板東英二氏を講師に招き七月十五日に開催いたしました。板東氏は「超一流への道」と題した講演で、十一年間のプロ野球選手生活や、その後のテレビタレントへの転身についてなど、テレビと同じユーモアたっぷりの語り口で、会場を埋めた約四百人の聴衆を引きつけました。

著書紹介

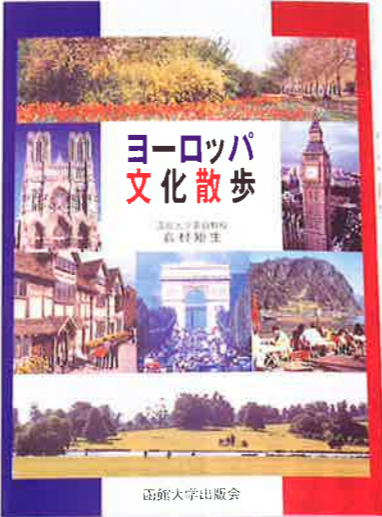
今回の著書紹介は、本学の特別講師である二名の先生の本を紹介いたします。それぞれの著書とも、著者の長年の経験や見聞から生まれた本です。機会があれば、ぜひ一読ください。



帰国後に、東京渋谷の東急カルチャーセンターで「ヨーロッパ文化の旅」について話した内容をまとめたのが、この本です。写真もふんだんに盛り込まれ、まさにヨーロッパ文化の歴史を旅するように読み進められる本です。

『ヨーロッパ文化散歩』

著者 島村 矩生
客員教授 (元NHKアメリカ総局長)
函館大学出版会刊



本書は、著者の言葉によると「現代のヨーロッパ文化にふれる旅を楽しむための予備知識、心得、参考情報を盛り込んだ、ヨーロッパ文化の入門書、旅行のガイドブック」です。

著者とヨーロッパの関わりは、一九六九年にロンドン勤務となり、イギリスを中心にアイルランドや北欧、中東の取材活動をしたのが始まりです。その十年後の二度目の勤務では、ヨーロッパ放送連合(EBU)への代表を務め、ヨーロッパ各国の放送機関の代表と接し、ラテン系諸国、ゲルマン系諸国、中東諸国の肌合いの違いを感じたそうです。そして一九九〇年代は、JSTV社長となった三度目のロンドン勤務で、ヨーロッパ文化・ヨーロッパ情勢の全体像について、あらためて見たり、聞いたり、考えたりしたそうです。

『噂を学ぶ— 学問としてのスキャンダル』

著者 梨元 勝
客員教授 (芸能リポーター・コメンテーター)
角川書店刊



本学で「芸能社会学」の講義を受け持っている梨元氏のこの著書は、本学での半年間にわたる講義がベースとなっています。章でも第一講義から第八講義まで、本学での講義を再現したような構成になっています。語り口も、学生たちに話しかけるように、とても分かりやすく面白く書かれています。これまでワイドショーをにぎわした

数々の芸能スキャンダルを、梨元氏だけが「ご存知裏話」とも紹介されています。次々と登場してくる実名に、読者は興味をそそられずにはおられません。しかし、単にスキャンダルの裏話では終わらず、そこからタレントという商品、報道の在り方、メディアの在り方などといった、梨元氏流の社会評論となっています。梨元氏の持論である「芸能ニュースは社会を映す鏡のようなもの。それを分析すると現代社会が見えてくる」を、本書は実証しています。



函館大学で客員教授となつたいきさつや、学生の反応などを書かれているので、読んでみると大学で講義を聞いているような気がします。こんなに面白い講義が聞ける函館大学の学生は幸せだ、と思うはずですよ。

OH! 大学祭



実行委員長 佐藤 匠
(四年・北海道函館西高校出身)

記念すべき第一回の「ミュージックフェスティバル@函館大学」の委員長として、無事に開催できたことを大変嬉しく思っています。今

第二回ミュージックフェスティバル大成功

第一回ミュージックフェスティバル@函館大学

回は「ジャンルにとらわれないひとつの音楽」というテーマのもとに、準備活動を行ってまいりました。今後はこの企画をもっと大きなものにし、音楽の世界で生きる者にとって限らない未来へ大きく飛躍するためのステップになれば、と願っております。

今回のミュージックフェスティバル@函館大学開催にあたり、大変多くの方々にご協力をいただきましたことを、心より厚く御礼申し上げます。



第一回ミュージックフェスティバル@函館大学

十月十三・十四日、第三十六回函大祭が約四千人の方々が訪れ、盛大に開催されました。今回のテーマは「風」ということもあり、様々な新しい風を吹かせようということで、今までにない特色のあふれる大学祭づくりに取り組みました。例年行っている芸能人ライブや各模擬店の他に、野菜やサケ・タコを格安で販売する函大祭中央卸売市場、STVアナウンサー中島静佳さんによる講演会、ミュージカル系コンテストや早食いなどのステージイベントなど、見て、聞いて、参加して楽しめる企画が盛り沢山でした。

第三十六回函館大学大学祭
実行委員長 岩崎 剛也
(四年・北海道天塩高校出身)



学生・職員・地域の方々の参加で盛況だった今年の函大祭

今年には多くの教職員や学生の積極的な参加があり、大学をあげて盛り立ててくれました。また、フリーマーケットや模擬店なども、学生だけでなく一般市民の来店もできるようなようにして、たくさんの方々に参加していただきました。

このように、第三十六回函大祭、学生と地域の方々の協力によって作り上げられたものと考えております。ご協力下さいました皆さんには、心より厚く御礼申し上げます。



そして第三十六回函大祭の目玉は、やはり新登場企画の「ミュージックフェスティバル@函館大学」だったでしょう。ミュージックフェスティバルについては、MF実行委員会の佐藤委員長より報告してもらいます。

クラブ close-up

ジャズ研究部

学年ごとにバンドを組んで練習
音楽スタジオが完成し、活動もますます活発に

平成八年に同好会として発足し、十一年に部に昇格したジャズ研究部。現在、部員十七名で活動しています。ジャズと聞けばすぐ難しくそうですが、ほとんどの部員が、部に入る前はジャズを聴いたこととは言いませぬ。楽器の方



も、経験者はほとんどなし。みんな部に入って、初めて楽器を手にしたそうです。だいたい学年毎に四〜五名でバンドを組み、それぞれ練習しています。一年生は、楽器もジャズも一から始める感じですが、それが三年生になると、スタンダードナンバー十曲くらいのレパートリーになるそうです。発表の場は、大学祭はもちろん、前後期の試験が終わった後に、大学近くのレストランでもライブをやります。部長の宮本昇君(二年・函大付属有斗高校出身)によれば、「卒業した先輩の結婚披露宴でも演奏する」こともあるそう。



昨日音楽スタジオが完成し、部活動の場もスタジオの一室を独占状態。「練習は自由参加ですが、ほとんど曲からいっていいです。発表の場は、後輩たちに「ジャズ研独自の企画でイベントをやりたいか」後輩たちには、発表の場を自ら作っていくようにしてほしい」と言います。宮本君は「ジャズの楽しさが分かってきたので、実力をつけて市内のライブハウスに出演できるくらいになりたい」と。

いずれにしても、ジャズ研でジャズを聴く楽しさや、演奏する楽しさを知った部員たち、きつと一生の趣味として続けていくことでしょう。

Club クラブ紹介 羽根球部

ここ数年の低迷を脱し一丸となって勝利をめざす



今年度は春季3位、秋季4位と不本意な成績に終わってしまいました。部長の酒井洋介君(3年・長野県岡谷工業高校出身)は、「ちょうど僕が入学してから優勝経験がないんです。僕はもう引退しますので、在学中に優勝できなかったのが残念です。後輩たちには、ぜひ優勝して強い函大を復活させてほしい」と言います。毎日の練習の成果を、試合で存分に発揮する。そうすれば、きっといい結果がついてくると思います。頑張れ、羽根球部。

体育館でほぼ毎日2時間の練習を続ける羽根球部。部員は現在20名で、合言葉は「優勝杯を奪回しよう」です。というのも、春・秋のリーグ戦で、平成10年まで4年連続していた優勝を、ここ3年間逃しているからです。



グラフ 函大祭

よさこいソーラン in 函大

だぞ汁ってなんだ?

神谷明トウフ

キン肉マンの声の人です

フリマも大好評!!

ミス函大? 僕ってキレイ?

「マルチメディア論文コンクール2001」で、
三浦由暁くんが特別賞受賞



本学三年の三浦由暁くん(秋田商業高校出身)が、北海道テレコム懇談会が主催する「第二回マルチメディア論文コンクール2001」で特別賞を受賞しました。

論文を応募したのは、ゼミの津金先生から「書いてみないか」と声をかけられたのがきっかけで、「昨年の春休み中、いろいろITについて考えていたところだったので、論文にまとめてみようと思った」そう。

それから、論文作成に取り組み、津金先生や大学生の姉に見てもらったりして推敲を重ねました。論文の主旨としては「現状では、パソコンの端末や通信費が高いということで一般家庭では負担の大きいのが問題だ、など現状の問題点を自分なりに取り上げました。それから、扱う側としては、今の世代はほとんどが自学でパソコンを覚えたが、これからの世代は学校教育の中

でもパソコンを習い、今後ますますITが家庭の中に入っていくだろう。ITの利用法は無限にあるが、だからこそ利用する人間のモラルがますます重要になってくる」といったものです。

特別賞の報告は、直接主催者側から電話で受け取ったので、「昨年の論文を見ると自身はなかったのに、入賞したのは本当に驚きだった」と言います。それでも、「受賞論文は、北海道テレコム懇談会のホームページに載るので、公に発表できたことはとても嬉しい」と喜んでいますが、皆さんも、北海道テレコム懇談会のホームページにアクセスして、三浦くんの論文を読んでみてください。

創立者・故野又貞夫先生の胸像
同窓会より贈呈される



野又学園創立者である故野又貞夫先生の生誕百年を記念した胸像が、昨年十月に除幕式が行われ、同窓会より贈呈されました。この胸像は、函大をはじめ野又学園七校にも贈られました。父君の胸像を贈られた野又肇理事長は「同窓生の

函大ボウリング部
二年連続全日本準優勝



昨年十二月三日(五日)に京都市で行われた文部大臣杯争奪第三十九回全日本ボウリング選手権大会で、函大ボウリング部が昨年一年連続準優勝の栄冠に輝きました。優勝した京都産業大学にはわずかに及ばなかったものの、全国の強豪相手の快挙です。

函大ボウリング部の昨年の成績は、北海道

道・東北学生連盟リーグ戦で春・夏とも優勝、八月の東日本学生選手権では二位と好成績をあげ、そして今回の全日本選手権の準優勝へとつなげていきました。

今回の団体戦のメンバーは、四年生が一人、三年生が二人、二年生が一人、一年生が二人。メンバーには漏れたが、一・二年生ではほかにも期待の選手が多く、来年以降も大いに期待が持てます。

全国一を目指して、ガンバレ函大ボウリング部!

野又学園創立者である故野又貞夫先生の生誕百年を記念した胸像が、昨年十月に除幕式が行われ、同窓会より贈呈されました。この胸像は、函大をはじめ野又学園七校にも贈られました。父君の胸像を贈られた野又肇理事長は「同窓生の

「寄付の蓄積に感謝申し上げます」
専攻教員・図書・音楽練習棟の新増築に際し、左記の皆様から「寄付」をいただきました。ご芳名等を掲載し感謝申し上げますとともに、ご芳志を教育と研究に大切に活かしてまいります。

(順不同)

函大協学会
①ブロンズ像 一点
日展会員 加藤勇作(十五歳の秋) 三二八六五〇〇円 (含設置費用)

②校舎新増築環境整備費
合計①+② 五〇〇,〇〇〇円

森崎 義和様 五〇〇,〇〇〇円 (図書整備費として)

外口 勝義様 一〇〇,〇〇〇円

上平 幸好様

アップライト・ピアノ 一台 (愛用の品)



佐藤季敦くん「全国童謡歌唱コンクール」
全国大会で銅賞を受賞!

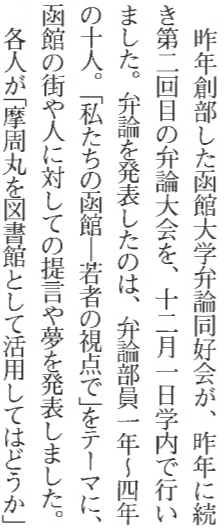


本学四年の佐藤季敦くんのぶくん(函大付属有斗高校出身)は、「第十六回全国童謡歌唱コンクール」に北海道代表として出場し、見事大部門で銅賞を受賞しました。大会は十一月三日、東京で開催されました。全国大会に先立つ八月に、札幌で同コンクールの北海道地区決勝大会で、佐藤くんは最優秀賞を獲得、全国大会の切符を手に入れました。

佐藤くんは、中学の頃からオペラが好きでよく聞き、函大に入学してから音楽教室に通い本格的に声楽の勉強を始めました。ですから「普段はイタリア歌曲を歌っている、童謡を歌うのは初めて。音楽教室の先生の薦めでコンクールに出ましたが、初めての参加で最優秀賞とは信じられませんでした」と語っていました。歌った歌は「ぼしれちよう」と「きゆう」で、「日本語をはっきりと、語りかけるように優しく」を意識して歌ったそうです。

全国大会では、風邪をひき体調は万全ではなかった

「私たちの函館」若者の視点で
函大弁論同好会による弁論大会開催



昨年創部した函館大学弁論同好会が、昨年に行き第二回目の弁論大会を、十一月一日学内で行いました。弁論を公表したのは、弁論部員一年〜四年の十人。「私たちの函館」若者の視点でをテーマに、函館の街や人に対するの提言や夢を発表しました。各人が摩周丸を図書館として活用してはどうか、「函館にラーメン通りを作ろう」などの個性的なアイデアや、行政の施策に対する意見など、堂々と自分の考えを発表していました。

同好会の顧問である、元S.T.V.函館放送局長の小林裕幸客員教授も、学生の本番での立派な弁論に目を細めていました。

この公演では南開大の学生・教授ら約二十名が、楊貴妃が登場する「貴妃酔酒」など、京劇でもポピュラーな十の演目からそれぞれ一幕ずつを上演。言うなれば、名場面ばかりを取り上げ、京劇の特徴や醍醐味を紹介してくれまし

窓の話題
経済構造改革

教授 若松 裕之

経済構造改革という言葉は、すでに五年以上わたって政策上のテーマとされてきています。現在では小泉首相の印象が強いのですが、橋本内閣でも重要課題とされていたのです。その内容は、非効率的で収益のあがらない部門からより効率の高い部門へ人、モノ、金を移動させることで経済全体の効率を上げようという考えです。当初は、経済がグローバル化の中で、IT産業などを発展させて海外でも競争に勝てる産業を育成すること、規制緩和により従来は民間企業の活動対象となっていた分野を企業化すること、新しい産業を生み出すことなどを考えていました。また、非効率分野も徐々に縮小するとしても、無くしてしまうというほどのところまでは考えてはいなかったと思われま

しかし現在の経済状況を見ると、この目標は実現しているとは思えません。IT産業が経済を支えるほどのものになっていないことは最近のIT不振から明らかになりました。規制緩和も既に過去の言葉となり、経済に影響を与えるほどの緩和は行われませんでした。経済

構造改革という言葉は、金融機関による不良債権処理と業績の悪い企業の倒産や解雇の意味で用いられることの方が多くなってきており、企業の淘汰はかなり進んできています。つまり、新たな受け皿のない状態で、失業する者が増えているのです。

現在のように物価が低下していく経済では、お金を使わずに保有しているだけで購買力が上昇するの、数字の上で低金利であっても実質的な金利は高いといわれています。これは企業にとっても同じで、手元の資金を新たな事業に投資するよりも保有し続けた方が有利だということになります。その結果、二〇〇一年後半から企業全体として貯蓄に回すお金が借入れのお金よりも多くなっています。新しい事業の創出には当然投資が必要になるのですが、相当高い利益を上げる事業でなければ採算の合う投資と見えないというところになって、このままでは民間企業から経済構造改革を起すことが不可能です。

経済構造改革は一年や二年で実現されるものではなく、少なくともあと五年はかかるものと覚悟しなければなりません。現状では、その前にデフレ対策と失業対策を行わなければならないと考えられ、そのものなっていくと考えられ、その対策を経済構造改革と矛盾しないように実施していかなくてはならないと考えています。

函館短期大学付設 調理師専門学校

〒042-0942 函館市柏木町7-25
TEL(0138)53-5572 FAX(0138)53-5579



▲下野茂校長



▲製菓衛生師科の実習
製菓・製パンの基礎技術を学ぶ。



▼調理師科実習
和・洋・中すべての料理の基礎を学ぶ。



▲「グルメピック」全国大会入賞作品。



▲学校祭「味まつり」には、2000人近い市民が来校する。



▲フランスへの海外研修旅行を毎年実施している。

技術の確実な向上のために独自の「技術等級認定試験」を実施。

独自の認定制度で技術重視の教育 ワンランク上のレベルを徹底追及

技術習得は実践あるのみ
調理実習は年間二百六十回

函館短期大学付設調理師専門学校は昭和四十三年の開校。現在は昼間一年課程の調理師科と製菓衛生師科、さらには製菓衛生師科夜間部を開設しています。調理師科は文字通り調理師の資格取得を目指すコースで、卒業と同時に調理師免許が得られます。製菓衛生師科は洋菓子・和菓子・製パンの技術を学ぶコースです。

調理の技術は、とにかく身体で覚える意外の近道はなし。そこで、現校長の下野茂校長は従来のカリキュラムをさらに実習に比重を置いたものにし、年間二百六十回に及ぶ実習を積み重ねます。「一年間という短期間で基礎技能をしっかりと身につけること。そして、実際に働く現場で同期の人間の中でトップの技術を持った人間にする。これが私の狙いです」と下野校長は言います。

在学中の技術向上のためにしているのが、同校独自の「技術等級認定試験」です。これは四級〜一級までを設け、段階的なレベルアップを図っています。

この試験は、全国的に「味まつり」で、毎年二千人近い市民が学校を訪れます。今年度の味まつりでは、学生が四百食分のステーキ、千人分のカレーやパンを用意。それが瞬く間になくなるほどの人気です。

その他にも、小学生に学校を開放しカレー作りやケーキ作りの体験指導、市民を招待するなどの実績につながっています。

地域の人々とのふれあいが 調理師の心を学ぶ

調理師にとって必要なのは、技術とともに心です。同校では、料理を食べていただくことの喜びを学生に感じてもらおうと、様々な機会を作っています。その最たるものは、学校祭の「味まつり」で、毎年二千人近い市民が学校を訪れます。今年度の味まつりでは、学生が四百食分のステーキ、千人分のカレーやパンを用意。それが瞬く間になくなるほどの人気です。

その他にも、小学生に学校を開放しカレー作りやケーキ作りの体験指導、市民を招待するなどの実績につながっています。

また、食の本場にならぶプロとなる学生たちの刺激となるよう、毎年フランスへの海外研修を実施しています。この研修では、フランス調理師学校で短期講習を受講します。この海外研修で、学生たちは料理人への夢をさらに大きく膨らませます。

三十年に及ぶ歴史の中で輩出した卒業生たちには、函館市内のホテル・旅館等で料理長クラスが数多くいます。もちろん全国で卒業生が活躍し、独立開業している人も多数。

就職・失業、転職の不安に備えて 人材、才能・人徳の涵養。生涯学べ。



函館大学学長
河村 博旨

五・四％失業率。三五〇万人を越える失業者。こういうニュースがマスコミで流される暗い世相です。統計の測定方法にも問題はあるかも知れませんが、しかし、右の失業者の数は少なくならそうにない昨今の日本の経済状況です。

人件費の二十分の一、二十分の一という安価な労働市場のある隣国―大國―を控えている日本国です。銀行等の不良債権の問題が完全に処理できたとしても、急に好景気が到来して、失業率や失業者の数が減少するという楽観的な予想はできようになりようです。

パートや派遣社員やフリーターと称される労働市場は、さら

に拡大し、こういう不安定で相対的に安い労働賃金の労働者の数は増加し続けようです。

ねぎなどの農産物も、衣料製品も、やがてはハイテク製品も、人件費の安価な中国などから大量に日本に流入し、その流れは加速しそうです。

ますます加速することはあっても、減速し、減少することは当分ない様子です。

工場も移転し、農産物の生産地も移転し、日本の技術者の指導で技術も移転する。こうなりますと、国内のこの分野の労働者は、減少せざるを得なくなります。

そして、先進国への輸出過剰による貿易摩擦と同時に、後進国からの輸入過剰についての貿易

摩擦も多発しそうです。

① こういう時代に生きる人材は、英語も、中国語もロシア語も理解し、駆使できる語学の達人であることが一段と期待されるでしょう。

② そして、技術指導の可能な指導者の人材。しかも、生産技術、製造技術ばかりでなくて、流通から販売の企画立案、そして実践の技術指導のできる人材。さらに、資金の調達から運用についての技術指導のできる人材。集団的な組織の企画立案から人事に至る管理技術の指導のできる人材。等々。

③ 要約すれば、後進国に不足している人材で語学にも堪能な人材。等々。

④ さらに、飛躍的に表現することを許されるならば、日本国内でも、後進国でも、さらには先進諸国でも、常に不足している人材であり続けることのできる人材となれば、いいと言えそうです。

⑤ しかし、右のように結論的なことは、誰にでも直ちに分かる

ことかも知れませんが、具体的に実際に、こういう人材を育成することは極めて困難です。

「家を富ますに良田を買うを用いず、書中自ら千鐘の粟あり」(真宗)

「一家を富ますには、良い田圃を買ふ必要はない。書物を読んで学問を修得し、自己実現(立身出世)すれば、自ずから豊かな生活も保証される(小学館・中国名言名句の辞典・七七六ページ参照)。

ここで述べられている書物からの学問は学習の主なものです。しかし実際には、書物の暗記暗誦とペーパーテストによる実力の判定のみの人材では、実社会では不十分な人材です。

飲食のマナーも、T・P・O(時・処・場所)に適していることも必要。服装も、会話も、立ち居振舞いも同じように必要です。

正課の授業の優等生が実社会では劣等生というケースも、よく言われることです。

課外でのクラブや同好会の組織的活動による訓練も不可欠です。

スポーツ万能、芸能も名人級、そして学問も優秀、会って話しても面白く役に立つ人材。こう

いう人材こそ一つの理想像かも知れません。

さらに、仕事も何をさせても名人達人、正直、誠実、勤勉、裏表の差のない性格、思いやり―他人への愛と奉仕の精神とその実践生活者、勇気と自己犠牲に富む生活者。

こういう人材であり、さらに外国語の一つや二つは達人という人材であれば、就職や失業の不安も転職の苦勞もあり得ない人材と言えそうです。

「生涯学べ」という創立者・野又貞夫先生の言葉を思い出します。

「耕して飢え其の中に在り、学びて禄其の中にあり」(論語)

「食を得よう」と田畑を耕して飢えることもあるが、学問を積んでいれば、自然と俸禄(報酬)を得られることになる(同上・七七二ページ参照)。

「才能あるものは人徳あらず。人徳あるものは才能あらず。真の人材はまことに得がたし」(新井白石・日本名言名句の辞典・六一五―一六ページ参照)。

人徳の「徳」とは何ぞやという難しい問題もありますが、これについては、別の機会に考えてみたいと存じます。

(H13・12・16(日))